

原 著

当院における病棟薬剤業務の現状評価と今後の課題

長岡中央総合病院、薬剤部：薬剤師

なかの ゆうた、くりげやし ともこ、たなか りか、ほりゆういちろう、さとう ひろし
 中野 祐太、栗林 友子、田中 利華、堀裕一郎、佐藤 宏

目的：当院で病棟薬剤業務を導入後1年が経過し、現在の業務内容の評価と、今後の業務充実を図るためアンケート調査を実施した。

方法：当院に勤務するすべての医師137名と病棟配属の看護師258名を対象とし、病棟薬剤業務に関して4段階で評価をしてもらい、結果について検討した。また、病棟業務のメリットや今後の要望について記述してもらった。

成績：全体の回答率は69.4%であり、医薬品情報の相談環境について、持参薬の鑑別について、患者の服薬アドヒアランスに関する質問について高評価であった。今後の要望としては病棟での薬剤に関するインシデント減少に向けた取り組み、患者への配薬業務の関与などが寄せられた。

結論：患者の副作用への理解を深めるため薬剤投与前の説明を積極的に行うことは有用である。また、問い合わせ方法の確立、医師及び薬剤師の業務負担軽減に向けたオーダープロトコルの協議を進めていく必要がある。より効率的で効果的な病棟薬剤業務を行うため、今後も検討を重ね、病棟薬剤業務を充実させていければと考える。

キーワード：病棟薬剤業務、業務負担軽減

い、「思わない」の4段階で評価してもらい、「とても思う」、「思う」を高評価、「あまり思わない」、「思わない」を低評価として集計を行った。また、薬剤師が病棟に配置され良かったと感じたことや、今後の要望についても記述してもらった。設問内容は以下の9項目である。①病棟業務開始前と比べ薬剤師からの処方内容の確認・問い合わせが増えたと思いますか。②薬剤師からの処方依頼・提案を受けることが増えたと思いますか。③医薬品に関するトラブル（服用間違い、継続・処方忘れなど）の頻度が減ったと思いますか。④医薬品に関する質問や要望を薬剤師にしやすくなったと思いますか。⑤持参薬の内容確認や、代替医薬品の選定がしやすくなったと思いますか。⑥薬剤師の介入頻度が増加したことで患者の治療薬に関する理解が深まり、服薬アドヒアランスの向上につながっていると思いますか（服薬アドヒアランス：患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けること。服薬遵守）。⑦患者が副作用の有無などを自ら訴えてくる頻度は増えたように思いますか。⑧薬剤師がカンファレンスなどに参加することで薬物治療の質の向上に役立っていると思いますか。⑨医薬品情報について必要な情報を得るまでの時間や負担が軽減したと思いますか。

緒 言

安全で質の高い医療を提供するために、薬剤師が病棟で主体的に薬物療法に係ることが求められており、平成24年度診療報酬改定において病棟薬剤業務実施加算が新設され、薬剤師の病棟配置が進められてきた(1)。当院でも半年間の導入準備期間を経て、2020年10月より病棟薬剤業務を開始、病棟薬剤業務実施加算の算定を行っている。導入後、約1年が経過し、現在行っている業務内容の評価と今後の業務内容の充実を図るため医師・看護師を対象にアンケート調査を実施した。

対象と方法

当院に勤務しているすべての医師137名と、病棟配属の看護師258名を対象に病棟薬剤業務の認知率と業務内容に関するアンケート調査を行った(図1)。設問内容は日本病院薬剤師会が示している「病棟業務の進めかた Ver. 1. 2」等を参考に、病棟薬剤業務の内容について評価を行えるよう作成した(1-3)。無記名、所属の記入は任意とし、「とても思う」、「思う」、「あまり思わな

結 果

医師34名、看護師240名より回答が得られ、回答率はそれぞれ医師24.8%、看護師93.2%、全体の合計では69.4%であった。病棟業務の認知率は医師・看護師あわせて98%であった。

医師の結果では、処方依頼・提案に関する②の質問に58.8%、薬剤師のカンファレンス参加に関する③の質問に67.6%の医師が高評価と回答した。評価が低かった質問は、患者の副作用の理解度に関する⑦の質問で、肯定的な回答は23.5%であった。また、持参薬の鑑別に関する⑤の質問、処方継続等に関する③の質問についても評価が低かった(図2)。

看護師の結果はおおむね高評価であったが、中でも、医薬品についての相談環境に関する④、⑨の質問にそれぞれ92.1%、85.4%が、服薬アドヒアランスに関する⑥の質問に82.5%の看護師が高評価であると回答した。また、持参薬に関する⑤の質問、薬剤師のカンファレンス参加に関する③の質問についても80.0%の看護師が高評価であった。評価の低かった質問は医師の結果と同様で、患者の副作用の理解度に関する⑦の質問であり、肯定的な回答は35.4%であった(図3)。

全体をまとめた結果については回答率の違いもあり、

看護師の結果とほぼ同様となった(図4)。

感じたメリットや今後の要望については76件のコメントが寄せられ、「助かっている」、「ありがたい」など肯定的な声が多かった。中でも医薬品に関する相談がしやすくなったという内容を含むコメントが44件あった。今後の要望としては、病棟での薬剤に関するインシデントやアクシデントの減少に向けた取り組みへの参加、配薬業務への関与などが寄せられた(図5)。アンケートの回収率について、医師向けにはアンケート用紙配布を医局内に設置のレターケースを利用して行ったこと、入院治療を行う機会の少ない医師も調査対象に含めたことなどから回答率が伸びず、結果についてもばらつきのあるものとなった。看護師向けには各病棟の担当薬剤師からの病棟師長にアンケート調査用紙を配布したこと、回収用封筒に病棟の名簿を貼付し、アンケート調査について確認を行ってもらったことから高い回収率が得られた。

考 察

全体をまとめた結果について、医薬品についての相談環境に関する④、⑨の質問にそれぞれ87.2%、81.0%が高評価と回答が得られており、病棟薬剤業務を導入したことにより互いに顔の見える関係になったことなどから他職種との信頼関係を築きやすくなり、医師、看護師の業務負担の軽減、チーム医療の推進につながっていると考えられる。看護部の結果では持参薬に関する⑤の質問について80.0%が高評価と回答している。当院では病棟薬剤業務導入前は持参薬の鑑別作業を看護師が行っていたため、看護師の負担となっていた。病棟薬剤業務導入後は薬剤師がメインに持参薬鑑別を行う様になったため、看護師の負担軽減につながったと言える。⑥服薬アドヒアランスの向上について、また、⑧の薬剤師が病棟などのカンファレンスに参加する機会を得られたことによる薬物治療の質の向上についてもそれぞれ78.1%、78.5%が高評価であり、カンファレンス等で得られた情報より、薬剤師の介入頻度が増加したことで患者の治療薬に関する理解が深まりアドヒアランスの向上につながっていると言える。しかし、患者が副作用を自ら医師、看護師に伝える頻度についてはあまり変わらないという評価が多いこと、処方内容の確認の問い合わせ、処方依頼や提案を受ける頻度について約半数が変化を感じていないという結果も出ている。今後の課題として、薬剤投与前の説明を積極的に行い、注意すべき副作用の初期症状等について患者の理解を深めていくこと、問い合わせ方法について検討を進めることがあげられる。当院では、主に医師に直接電話かけて問い合わせを行っているため、時間帯など配慮が必要なこと、電話がつかない場合など、医師、薬剤師、双方の負担となっている。電子カルテのメール機能の活用や、患者掲示板機能の利用など、記録にも残り、負担軽減につながる手段の検討、導入を進めていければと考える。また、持参薬の鑑別や、処方忘れなどに関する評価が低かったことから、医師の業務負担の軽減を図り、薬物療法の有効性・安全性の向上に寄与するため、医師・薬剤師等により事前に作成・合意されたプロトコールに基づいた、薬剤師による薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更や検査のオーダーの実施についても協

議を進めていく必要がある(4)。

結 語

より効率的で効果的な病棟薬剤業務を行うため、今後も検討を重ね、病棟薬剤業務を充実させていければと考える。

文 献

1. 厚生労働省. 病棟業務の進め方 (Ver. 1. 2). 一般社団法人日本病院薬剤師会. <https://www.jshp.or.jp/cont/16/0609-2.html>. (引用アクセス2021年11月19日)
2. 厚生労働省. 保医発0305第1号 令和2年3月5日 診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について A244.
3. 厚生労働省. 保医発0305第2号 令和2年3月5日 基本診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて 第26の3病棟薬剤業務実施加算.
4. 厚生労働省. 医政発0403第1号 平成22年4月30日 医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について.

英 文 抄 録

Original Article

Current Status and Future Issues of Ward Drug Business at Our Hospital

Department of pharmacy, Nagaoka General Central Hospital; Pharmacist

Yuta Nakano, Tomoko Kuribayashi, Rika Tanaka, Yuichiro Hori, Hiroshi Sato

Purpose : One year has passed since we introduced the ward drug business at our hospital, and we conducted a questionnaire survey to evaluate the current business content and to enhance the business in the future.

Methods : All 137 doctors working at our hospital and 258 nurses assigned to the ward were asked to evaluate the ward drug work on a four-point scale, and the results were examined. In addition, we asked them to describe the merits of ward work and future requests.

Results : The overall response rate was 69.4%, which was highly evaluated for questions regarding the consultation environment for drug information, the differentiation of brought-in drugs, and the patient's medication adherence. Future requests included efforts to reduce incidents related to drugs in the ward and involvement in drug distribution to patients.

Conclusion : It is useful to actively explain before drug

administration in order to deepen the patient's understanding of side effects. In addition, it is necessary to proceed with discussions on order protocols to establish inquiry methods and reduce the workload of doctors and pharmacists. In order to

carry out more efficient and effective ward drug business, we would like to continue to study and enhance the ward drug business.

Key Words : Ward drug business, Work burden reduction

薬剤部 病棟業務導入前後の変化に関するアンケート調査

所属（任意）： _____

日頃より薬剤部の業務にご協力いただきありがとうございます。

薬剤部では2020年10月より病棟薬剤業務実施加算の算定を開始し、病棟専任の薬剤師の配置を行っています。

薬剤師の病棟業務の目的

- ① 入院患者に対する最適な薬物療法の実施による安全性・有効性の向上。
- ② 疾病の治療・改善、精神的安定を含めた患者のQOLの向上。
- ③ 医薬品の適正使用の推進による治療効果の向上と副作用の防止による患者利益への貢献。
- ④ 病棟における薬剤に関するインシデント・アクシデントの減少。
- ⑤ 薬剤師の専門性を生かしたチーム医療の推進。

病棟薬剤業務開始後約1年が経過し、現在行っている病棟薬剤業務の評価と今後の業務内容の充実を目指すため、医師・看護師の皆様にはアンケート調査を実施させていただきます。お忙しいところ大変恐縮ではございますが、ご協力をお願い申し上げます。

ご回答が済みましたら各部署に設置させていただきます。回収用封筒にこの用紙を入れてください。

_____年 月 日（ ）までにご回答をお願い申し上げます。

- ・ 薬剤師が病棟薬剤業務を行っていることを知っていましたか。□はい □いいえ
- ・ 病棟業務開始前と比べ薬剤師からの処方内容の確認・問い合わせが増えたと思いますか。□とても思う □思う □あまり思わない □思わない
- ・ 薬剤師からの処方依頼・提案を受けることが増えたと思いますか。□とても思う □思う □あまり思わない □思わない
- ・ 医薬品に関するトラブル（服用間違い、継続・処方忘れなど）の頻度が減ったと思いますか。□とても思う □思う □あまり思わない □思わない
- ・ 医薬品に関する質問や要望を薬剤師にしやすくなったと思いますか。□とても思う □思う □あまり思わない □思わない
- ・ 持参薬の内容確認や、代替医薬品の選定がしやすくなったと思いますか。□とても思う □思う □あまり思わない □思わない
- ・ 薬剤師の介入頻度が増加したことで患者の治療薬に関する理解が深まり、服薬アドヒアランスの向上につながっていると思いますか。（服薬アドヒアランス：患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けること。服薬遵守。）□とても思う □思う □あまり思わない □思わない
- ・ 患者が副作用の有無などを自ら訴えてくる頻度は増えたように思いますか。□とても思う □思う □あまり思わない □思わない
- ・ 薬剤師がカンファレンスなどに参加することで薬物治療の質の向上に役立っていると思いますか。□とても思う □思う □あまり思わない □思わない
- ・ 医薬品情報について必要な情報を得るまでの時間や負担が軽減したと思いますか。□とても思う □思う □あまり思わない □思わない
- ・ 病棟業務開始後薬剤師が配置されて良かったと感じたことや、今後の病棟薬剤業務について要望などあれば教えてください。（記述）

ご協力ありがとうございました

※このアンケートに関するお問い合わせがありましたら薬剤部内線 3620 にご連絡ください。調査の結果は今後研究発表活動等にも利用させていただきます。

図1. アンケート調査用紙

アンケート調査結果

- ① 病棟業務開始前と比べ薬剤師からの処方内容の確認・問い合わせが増えたと思いますか。
- ② 薬剤師からの処方依頼・提案を受けることが増えたと思いますか。
- ③ 医薬品に関するトラブル(服用間違い、継続・処方忘れなど)の頻度が減ったと思いますか。
- ④ 医薬品に関する質問や要望を薬剤師にしやすくなったと思いますか。
- ⑤ 持参薬の内容確認や、代替医薬品の選定がしやすくなったと思いますか。
- ⑥ 薬剤師の介入頻度が増加したことで患者の治療薬に関する理解が深まり、服薬アドヒアランスの向上につながっていると思いますか。
- ⑦ 患者が副作用の有無などを自ら訴えてくる頻度は増えたように思いますか。
- ⑧ 薬剤師がカンファレンスなどに参加することで薬物治療の質の向上に役立っていると思いますか。
- ⑨ 医薬品情報について必要な情報を得るまでの時間や負担が軽減したと思いますか。

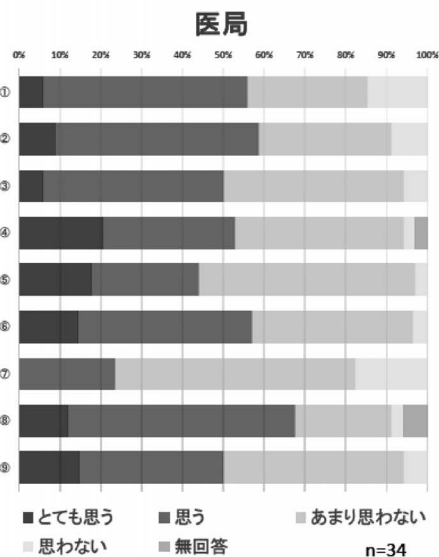


図2. アンケート調査結果 医師

アンケート調査結果

- ① 病棟業務開始前と比べ薬剤師からの処方内容の確認・問い合わせが増えたと思いますか。
- ② 薬剤師からの処方依頼・提案を受けることが増えたと思いますか。
- ③ 医薬品に関するトラブル(服用間違い、継続・処方忘れなど)の頻度が減ったと思いますか。
- ④ 医薬品に関する質問や要望を薬剤師にしやすくなったと思いますか。
- ⑤ 持参薬の内容確認や、代替医薬品の選定がしやすくなったと思いますか。
- ⑥ 薬剤師の介入頻度が増加したことで患者の治療薬に関する理解が深まり、服薬アドヒアランスの向上につながっていると思いますか。
- ⑦ 患者が副作用の有無などを自ら訴えてくる頻度は増えたように思いますか。
- ⑧ 薬剤師がカンファレンスなどに参加することで薬物治療の質の向上に役立っていると思いますか。
- ⑨ 医薬品情報について必要な情報を得るまでの時間や負担が軽減したと思いますか。

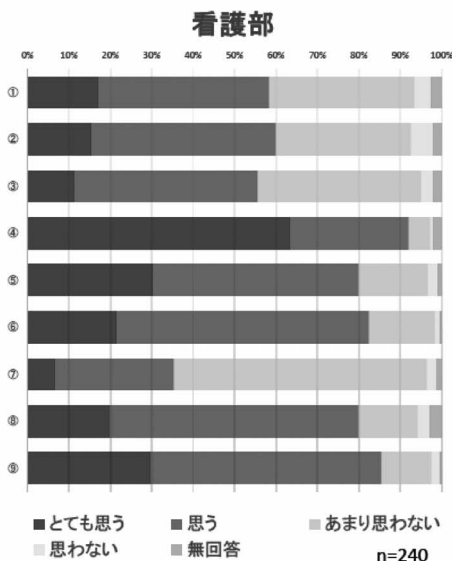


図3. アンケート調査結果 看護師

アンケート調査結果

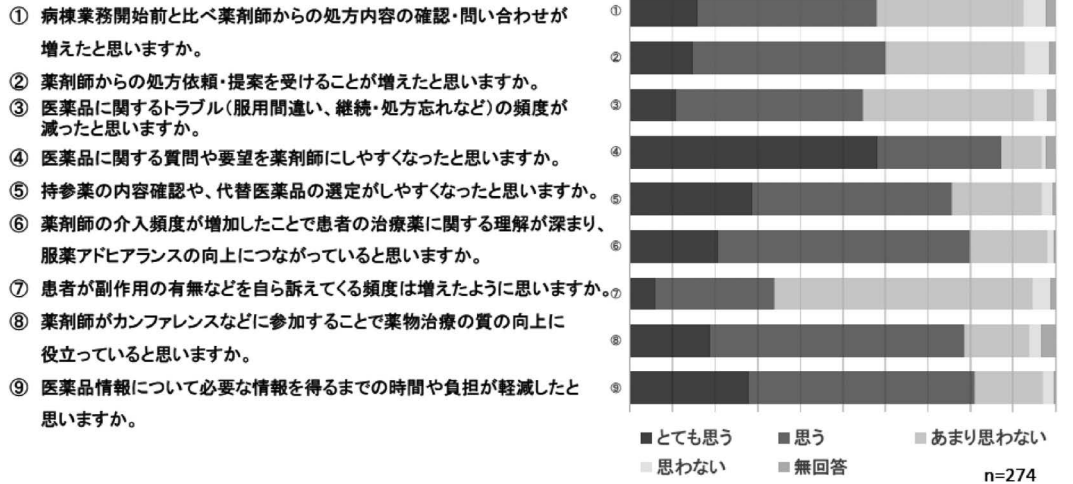


図 4. アンケート調査結果 全体

薬剤師が病棟に配置されて良かったと感じたこと、今後の病棟薬剤業務に関する要望

- ・ 薬剤師が内服投与されていない薬袋に気づいてくれた事例があった。薬剤師が持参薬の確認をしてくれるとありがたいです。
- ・ 相談しやすく心強いです。薬剤は苦手意識があるが、知ろう・学ぼうという気持ちが高まっています。
- ・ 薬剤に関するインシデントやアクシデントの減少についての取り組みをどう協働していくか(協働していきたいが)。
- ・ 話しやすく、多くの情報を教えて下さり本当に感謝しています。Ns.患者さんにとって病棟薬剤師さんの存在が本当に大きく救われています。今後も病棟薬剤師の配置は必要です。
- ・ 服薬指導の依頼が以前よりスムーズになった。持参薬報告の薬が明確になった。
- ・ 薬剤に関する疑問を聞きやすくなった。より安全に投与できると思う。
- ・ 看護師、医師との連携も良好で配置されて効果的と考えます。引き続き連携していきましょう。(無理と思いますが、配薬業務等連携していけるとよいと思ったりします。)
- ・ カンファレンスに参加してもらい、その場でDr.にも提案してもらえることが良かった。
- ・ 持参薬の確認をしてもらってありがたい。必要時Dr.へ提案してもらい、Ns.が言うより説得力がありありがたいです。
- ・ こんな事電話して聞いてもいいのかなと思ってしまう些細な事でも質問しやすくなった。病棟担当が決まっていることでコミュニケーションも回りやすくてとても助かっています。ありがとうございます。
- ・ PHSもあるからすぐに聞けて助かっています。いつもありがとうございます。
- ・ 患者からの薬についての質問に対し正しい回答をすぐに伝えられるようになった。持参薬報告の確認業務が変わって貰えたのでほかの業務に時間をとれるようになった。
- ・ 看護師が把握しきれない情報をベットサイドで把握してくださりうまく連携できていると思います。

計76件 原文のまま引用
一部抜粋

図 5. 良かったと感じたことや、今後の要望について寄せられたコメント 一部抜粋